

こんなことやってるよ

北信濃の里山を保全活用する会

福本匡志（北信濃の里山を保全活用する会事務局）

本会は、絶滅に瀕する蝶「オオルリシジミ」が飯山市内で発見され、その生息地を含む里山の保全活用を進めるため2011年に設立されました。会が目指すところは、「人と動植物のにぎわい」を復活させ、里山を元気にすることです。この課題に継続して取り組むためにも、「シンプルでわかりやすく」、「やりがいが感じられ」、「ごほうびが見込める活動を行うこと」を会のスタンスとしています。

オオルリシジミは草原性の蝶で、かつては晩春から初夏にかけ信州の各地で舞っていましたが、人の生活様式の変化等により、その生息環境の多くが失われてしまいました。当生息地では、会員により定期的に灌木伐採をしながらオオルリシジミに適した草原の維持を図りつつ、周辺に食草のクララを植栽するなど生息域の拡大を計画しています。市民一般の方々には、観察会を開催して、モニタリング調査を行いながら希少な蝶の存在を知ってもらうようにしています。また、生息地

に自生するススキを、古民家修復用で需要がある「カヤ」として活用することを検討しています。

北信濃にはオオルリシジミのほかにも、ブナ林から田園に至るまで雪国特有の生きものたちの息吹が満ち、里山の魅力が詰まっています。我々の活動により、地元で北信濃の里山を熱く語る人々が毎年増え、都会から北信濃を訪れた人たちに『また、来たいね』と言ってもらえるようになることを願ってやみません。



観察会とオオルリシジミ

こんな本みつけた!

読書案内

『地球温暖化で日本の農業はどう変わる』

林陽生 著

光の家協会 2009年 205頁 1,680円(税込)

今回は、温暖化と日本の農業について書かれた、2冊の書籍をご紹介します。

これまでの温暖化対策は、温室効果ガスの排出量を減らすことが主でしたが、近年の温暖化研究の進展で、それだけでは今世紀中の気温上昇を食い止められそうにないことがわかってきました。そこで、温暖化した気候に適応するように、社会の制度や仕組みを変えてゆくことで、温暖化による被害を最小限に食い止める「温暖化適応策」が注目されてきています。

この温暖化適応策が現在最も進んでいるのが農業分野です。農家の方の多くは気候の変化に敏感で意識が高く、これまで消費者の嗜好の変化など、様々な変化に柔軟に対応してきた実績があります。農業分野は対策にかかる費用が比較的少ないこともあり、実に様々な温暖化適応技術が開発されています。

今回ご紹介する2冊の書籍は、日本の農業の現場で現在どのような変化が起きているのか、今後どのような温暖化

『温暖化が進むと「農業」「食料」はどうなるのか?』

杉浦俊彦 著

技術評論社 2009年 216頁 2,079円(税込)

の影響が表れそうなのか、そしてどのような対策があるのかなどについて、農業気象学が専門の著者が一般向けに解説したものです。このまま温暖化が進み現在の品種をそのまま使い続けると、今世紀末には関東以西の平地では最適な田植えの時期が8月上旬になることや、リンゴやミカンの生育適地が大きく北上すること、様々な適応技術などが書かれています。温暖化のメリット、戦略的な農業についても言及されています。農家の皆様をはじめ、多くの方に読んで頂きたい2冊です。

(紹介者 田中博春)

